

第4回 復旧復興支援部会連続シンポジウム

「復興の原理としての「建築」ーコミュニティ・アーキテクト制をめぐるー」

& 復旧復興支援建築展「建築に何ができるか、できることとできないこと」

主催：日本建築学会 復旧・復興支援部会

●シンポジウム

復興まちづくりのために「建築」の果たすべき役割は大きい。しかし、必ずしもその役割を果たせてはいないのではないか。それ以前に復興計画は豊かな地域社会を築きあげていく方向に向かっているのではないか。一体何が問題なのか。本シンポジウムでは、被災地の未来を拓くため、復興まちづくりの問題点について徹底的に議論し、「建築」の果たすべき役割、どのような「建築」がなさねればならないか、根本的に考えたい。議論の中心に据えたいのは、「建築家」が地域社会をささえる「コミュニティ・アーキテクト制」と仮に呼ぶ仕組みのあり方である。

日時：2012年11月9日 13:00～17:30

場所：建築会館ホール

定員：200名

参加費：会員 2,000円、会員外 3,000円、学生 1,000円

動画配信も行います。動画配信には、参加費に資料送付代 500円が加算されます)

申込み：建築会館ホールへご来場の方はこちらからお申し込みください。

<http://www.aij.or.jp/index/?se=sho&id=282>

動画配信を申込みの方はこちらからお入りください。

<http://www.aij.or.jp/jpn/symposium/2012/symposium20121109ust.pdf>

※インターネット環境を利用した動画配信サービスです。パソコン等より視聴することができます。

プログラム

総合司会 布野修司（滋賀県立大学／復旧・復興支援部会長）

13:00-13:10

日本建築学会会長挨拶 和田 章（東京工業大学名誉教授／東日本大震災調査復興支援本部長）

13:10-14:00

第一部 基調講演

伊東豊雄（建築家）みんなの家 わたしたちの建築ーコミュニティ・アーキテクト制にむけて（仮）

14:05-15:25

第二部 連続プレゼンテーション 何を考え、何をしてきたか、何が問題なのか

陶器浩一（滋賀県立大学）

森 傑（北海道大学）

杉本洋文（東海大学）
芳賀沼整（建築家）
石原健也（千葉工業大学）
竹内 泰（宮城大学）
福屋粧子（東北工業大学）
手塚貴晴（東京都市大学）
ヨコミゾマコト（東京芸術大学）

15:30-17:30

第三部 パネル・ディスカッション コミュニティ・アーキテクト制をどう実現するか

モデレーター：宇野 求（東京理科大学／復旧・復興支援部会幹事）

パネリスト：山本理顕（建築家）、小嶋一浩（横浜国立大学）、塚本由晴（東京工業大学）、
青井哲人（明治大学）、姥浦道生（東北大学）、伊東豊雄（前掲）＋第二部講演者

●復旧復興支援建築展

原則実現したもの、実現を前提とする提案を中心に、模型、パネル、ビデオなどを展示します。スペースの制約があり、パネリストおよび復旧復興部会による招待展示を主とさせていただきます。

出典希望者は、10月10日までに、プレゼンテーションの形式（パネル・サイズ、模型サイズ等）を事務局に登録して頂きますようお願いいたします。2013年3月末には、よりオープンな展覧会を開催する予定です。

期 間：11月6日（火）～9日（金）

場 所：建築博物館ギャラリー

入場料：無料

問合せ・連絡先：日本建築学会事務局 復旧・復興支援部会担当 三島

電話：03-3456-2056 FAX：03-3456-2058 E-mail：mishima@aij.or.jp